

田布施駅舎等の整備に取り組んでいます（令和8年6月現在）



昭和34年建築（1F：244.6㎡、2F：54.5㎡）

田布施駅舎の整備については周辺整備も含めて、国の交付金を活用することで進めていくことが決定しました。

この交付金は、地方公共団体の自主性と創意工夫に基づく地域独自の取組を、計画から実施まで後押しするもので、駅舎を単なる旅客施設とせず、まちの交流拠点施設とする田布施町の取組が国に認められました。

駅舎完成までの具体的なスケジュールや駅舎の規模などについては、JR西日本様などと、細部について協議していますが、JR西日本様では、令和9年度中の既存駅舎の解体を見込んでいます。

町では、令和9年度末までに、駅舎の建築を行うための詳細な実施設計の完了と、令和10年度中に建築を開始し、早期の完成を目指して事業を進めています。

今後は、駅舎の基本設計に着手し、要望や予算を反映させた駅舎の全体規模を確定させ、基本方針をまとめていきます。

駅舎内の間取りや設備などについては、駅を多く利用されている田布施農工高校や田布施総合支援学校の生徒の皆さんからアイデアをもらっており、少しでも反映できるよう協議を行っています。その他にも、たぶせ未来戦略策定検討委員会の委員の皆さんからも町民を代表して様々なアイデアを出してもらっています。

駅舎内のスペースに限りがありますので、いただいた皆さんのご意見すべてを反映することは出来ませんが、近日中に開催予定の町商工会、町観光協会、町議会、高等学校等、町内の関係者で構成する「田布施駅舎等整備検討委員会」でご意見を伺い、参考にしていく予定としています。

これからも定期的に町民の皆さんに、交流拠点施設として生まれ変わる駅舎等の整備計画状況をお知らせします。